

IV 校内研究推進計画

1 向島中学校区 研究推進シート

向島中学校区 研究推進シート

令和5年度（ 向島 ）中学校区				
中学校区において15歳で目指す子供の姿				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 志高く挑戦し続ける生徒 ○ 多様性を尊重し、かかわり合える生徒 ○ 失敗を恐れぬ元気さをもつ生徒 ○ 新しい発見から学びを深められる生徒 				
育成したい資質・能力				
表現力		主体性		
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個性、考え方の違いを共有し、お互いを尊重した上で、よりよい解決方法を導き出し、論理的に表現することができる。 ・自分が探究したいテーマを見つけ、それに対して、必要な情報を収集・選択・活用し、考えを社会生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・将来のなりたい自分、就きたい職業を視野に入れ、具体的な目標をもち、何度でもチャレンジすることができる。 ・何か行動を起こす前に不安をつのらせ、立ち止まったままではなく、自分自身で困難に思い切ってぶつかっていくことができる。 ・仲間と協働することによりさらに探究していくことができる。 		
学校名	向島中	高見小	向島中央小	三幸小
研究主題 (研究仮説)	多様性を認め合い、学びを深める生徒の育成 ～「問いの6段階」を意識した単元開発を通して～	科学的な見方・考え方を基盤とする表現力の育成 ～考えを深める交流活動を通して～	確かな力の育成 ～数学的な見方・考え方を働かせて、学びをつなぐ授業の創造～	表現力と主体性・協働性を育てるための算数科授業の創造 ～わかる・できる・伝え合う、児童主体の算数科授業を通して～
公開研究会開催年度	令和6年度	令和6年度	令和5年度	令和7年度

2 研究主題

科学的な見方・考え方を基盤とする表現力の育成 ～考えを深める交流活動を通して～

○本校における「表現力」とは

現行の小学校学習指導要領の各教科において示されている表現力に加え、向島中学校区で定義している表現力の育成を目指すために、次のように設定した。

1・2年	3・4年	5・6年
<ul style="list-style-type: none">・身近なことや経験したことなどから、自分の思いや考えを持つ。・相手に伝わるように、事柄の順序を考えて表現する。	<ul style="list-style-type: none">・目的を意識して、自分の思いや考えをまとめる。・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら伝えたいことの内容が明確になるように構成を考えて表現する。	<ul style="list-style-type: none">・目的や意図に応じて、自分の思いや考えを広げる。・内容が明確になるように、事実と感想・意見を区別するなど、構成を考えて表現する。

○本校における「考えを深める」とは

児童同士の協働、教職員や地域の方々との対話、既習事項や先哲の考え方を手がかりにしながらかえさせる。考えを基に、意見交換したり議論したりする際には、教師が発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な支援・指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。これらを通して、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたり、新たな性質を考察したりできるようにする。

3 主題設定の理由

(1) 昨年度の研究における成果と課題

昨年度の研究における成果と課題は、次の通りである。

①成果

- ・検証の指標を評価補助簿及び学校評価表と関連させ、毎月の進捗状況を把握したり、単元末テストの結果分析及び改善策について、各担任が研究主任や管理職の助言を得て、実際の授業場面を振り返りながら考えたりした。これにより、教師の分析力が高まり、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ・教師一人一人が教材研究を行い、児童が主体的に学ぼうとするための実感を伴った授業展開を図ろうとする意識が高まってきている。

②課題

- ・授業で表現したことが、必ずしもテストの結果につながっていない。テスト分析をする限り、問題文を読み取れていなかったり、日常生活と結びついた問題の正答率が低かったりする傾向が見られた。また、標準学力調査についても同様の傾向が見られた。
- ・理科・生活科で学習したことを、「学習の基盤となる資質・能力」に落とし込んだ上で他教科に生かすことが十分にできていない。その傾向は特に算数科において顕著である。
- ・異学年交流や日常生活で、進んで相手に伝えようとしている児童がまだ少ない。

(2) 各種学力調査から

①全国学力・学習状況調査

	自校(全国比)	尾道市	広島県	全国
国語	63(-2.6)	67	67	65.6
算数	55(-8.2)	63	64	63.2
理科	62(-1.3)	64	66	63.3

②標準学力調査 ※ () 内は全国比

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	知・技	81.8(+1.2)	88.0(-0.5)	73.3(+2.3)	79.5(+1.8)	81.6(+11.2)	61.3(-11.9)
	思・判・表	69.0(+1.5)	77.7(+3.6)	67.1(-3.4)	68.2(+4.8)	88.8(+18.1)	60.6(-9.5)
	主体的	66.7(+2.1)	72.5(+5.2)	57.6(-1.7)	58.5(+0.2)	93.7(+21.7)	53.3(-15.9)
算数	知・技	93.8(+6.9)	72.8(-1.7)	72.5(-2.6)	80.1(+7.9)	69.2(+3.2)	67.5(-7.3)
	思・判・表	81.3(+13.4)	58.9(+6.7)	52.2(-4.7)	60.6(+4.0)	57.5(+7.4)	53.6(-6.5)
	主体的	85.5(+11.5)	59.1(+0.9)	63.4(+0.2)	56.9(+12.7)	57.1(+8.0)	53.0(-9.2)
理科	知・技			74.7(+0.5)	74.4(-3.1)	76.2(+11.6)	
	思・判・表			62.3(+5.4)	68.2(+2.1)	79.4(+12.6)	
	主体的			69.4(+8.5)	53.8(-10.4)	81.1(+10.1)	

(3) 研究主題の設定理由

本校の課題から、昨年度まで研究してきた理科・生活において育成してきた表現力を基に、他教科や日常生活においても科学的に思考したり、関わり合いの中で自己の考えを深めたりすることで汎用的に表現できるようにしていくことが必要であると考えた。

そこで本年度の研究主題を「科学的な見方・考え方を基盤とする表現力の育成」とし、サブテーマを～考えを深める交流活動を通して～と設定した。中学校区で設定した「15歳で目指す子供像」や「育成したい資質・能力」を見通しながら、交流場면을意図的に仕組んでいく。児童同士の協働、教職員や地域の方々との対話、児童同士の協働、教職員や地域の方々との対話、既習事項や先哲の考え方を手がかりにしながら考えさせる。考えを基に、意見交換したり議論したりする際には、教師が発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な支援・指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。これらを通して、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたり、新たな性質を考察したりできるようにしていく。

4 研究のねらい

科学的なものの見方・考え方を働かせるための単元構想や意図的な交流活動の設定、インクルーシブ教育の視点に基づいた指導と評価の改善、素地となる基礎学力の向上を通して、各教科で培う科学的な見方・考え方を基盤としながら表現する力を育成する。

5 研究仮説

- ・教科の本質を踏まえながら、次のような手立てを講じることで、表現力を高めることができるであろう。
- (1) 児童が「なぜだろう」「やってみたい」「解決したい」と主体的に科学的な見方・考え方を働かせることができるような問いを設定することで、実感を伴った授業展開を行う。
- (2) 児童一人一人が考えたことを基に意図的に交流活動を仕組み、意見交換したり議論したりする際、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な支援・指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことを通して、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたり、新たな性質を考察したりできるようにしていく。

6 研究の内容

- (1) 科学的なものの見方・考え方・能力を働かせるための単元構想
 - ・常に問い直し、答えが更新されていくことで持続した学びとなるよう本質的な問いを設定し、それを基に児童が「なぜだろう」「やってみたい」「解決したい」と主体的に科学的な見方・考え方を働かせることができるような問いを設定しながら、児童が主体的・協働的に問題解決に向けて追究していく学習者基点の単元構想を設定することで、実感を伴った深い学びにしていく。
- (2) 意図的な交流場面の設定
 - ・児童同士の協働、教職員や地域の方々との対話、既習事項や先哲の考え方を手がかりにしながら考えさせる。考えを基に、意見交換したり議論したりする際には、教師が発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な支援・指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。これらを通して、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをよ

り妥当なものとしたり、新たな性質を考察したりできるようにしていく。

- (3) 授業設計評価マトリクスを活用した指導と評価の改善とインクルーシブ教育の視点に基づいた手立て
- ・授業設計評価マトリクスの作成により、単元や本時のねらいを達成した児童の具体的な姿を明確にする。4段階のレベルで児童一人一人の姿を予測し、それぞれの段階に応じた教師の支援や助言をあらかじめ複数準備する。
 - ・一人一人がどの点でつまづいているのかを把握し、つまづきに応じた具体的な手立てを講じていく
- (4) 素地となる基礎学力の向上
- ・日々の授業及び補充学習を通して個別最適化した学びを行い、基礎的・基本的な学習の素地となる国語科・算数科の基礎学力を向上させ、相互に活用できるようにしていく。

7 検証の指標・到達目標

(1) 検証の指標

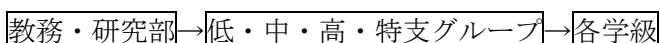
- ①児童は発達段階に応じて科学的なものの見方・考え方を働かせながら単元のねらいに応じた表現をすることができていたか。(評価補助簿)
- ②科学的なものの見方・考え方を働かせるための「問い」は適切だったか。
(授業研究における協議会シート)
- ③児童一人一人のつまづきに応じた手立ては適切であったか。(授業設計評価マトリクス)
- ④素地となる基礎学力は付いているか。
(国語科・算数科・理科における、知識・技能を問う単元末テスト)

(2) 到達目標

- ①国語科・算数科・理科における各単元の思考力・判断力・表現力等のB評価以上の児童割合 80%以上
- ②肯定的評価 80%以上
- ③授業設計評価マトリクスにおけるレベル3以上の児童の割合 80%以上
- ④国語科・算数科における知識・技能を問う単元末テスト平均85%以上

8 研究組織

(1) 校内研究体制



(2) 講師

- ・広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 木下 博義 先生
- ・広島県立尾道7特別支援学校 教育相談主任
- ・尾道市教育委員会 指導主事

9 研究計画

月	日	曜	研究内容	講師
4	4	火	○理論研修(担当:研究主任) ・令和5年度の研究の方向性について ・本校児童の学力について	
	13	木	○タブレット研修(担当:情報担当) ・Chromebookの使い方とクラスルームについて	
	24	月	○全国学力調査採点(担当:教務主任)	
	27	木	○授業研究について(担当:研究主任) ・令和5年度校内授業研究年間スケジュール決定	
5	11	木	○理論研修(担当:研究副主任) ・理科指導案検討(4年)	
	26	金	○理論研修(担当:教務主任) ・学習評価に関わる研修 ・補助簿について ○算数科ノート交流(担当:研究主任)	
6	1	木	○授業研究・協議会(担当:研究副主任) ・理科授業研究(4年)	広島大学大学院 木下博義先生①

	8	木	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 科指導案検討 (知的障害特別支援学級)	
	22	木	○授業研究・協議会 (担当: 研究主任) ・ ○○科授業研究 (知的障害特別支援学級)	尾道特別支援学校 教育相談主任
	29	木	○算数科ノート交流 (担当: 研究主任)	
7	6	木	○個人研修 ・ 1学期評価	
	13	木	○個人研修 ・ 1学期評価	
	26	水	○ブロック研修 (担当: 教務主任) ・ カリキュラム・マップ修正・改善 ○ブロック研修 (担当: 総合担当) ・ 総合的な学習の時間 年間指導計画改善	
	28	金	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業公開について	
8	2	水	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業研究単元構想図検討 (4年) ○個人研修 ・ 指導案作成・予備実験 ・ 授業公開会掲示物作成	
	3	木	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 算数科授業研究指導案検討 (5年)・ (情緒障害特別支援学級)	
	21	月	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業公開指導案検討 1年・4年・6年 ○理論研修 (担当: 教務主任) ・ 2学期の重点課題	
	24	木	○個人研修 ・ 授業公開指導案修正 ・ 予備実験	
			○小中連携	
9	7	木	○個人研修 ・ 授業公開掲示物作成 ○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 指導案最終確認	
	14	木	○授業研究・協議会 (担当: 研究主任) 算数科授業研究 (5年)・ (情緒障害特別支援学級)	広島大学大学院 木下博義先生②
	29	木	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業公開に向けて ○算数科ノート交流	
10	6	木	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 研究の提案について	
	19	木	○ブロック研修 ・ 授業公開細案作り・教室掲示完成	
	26	木	○算数科ノート交流 ○ブロック研修 ・ 授業公開改善案模擬授業 ・ 教室掲示完成	
11	2	木	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業公開全体シミュレーション	
	7	火	○授業公開 ・ 研究授業 1年・4年・6年 ・ 分科会	広島大学大学院 木下博義先生③ 尾道市教育委員会 指導主事
	24	金	○理論研修 (担当: 研究主任) ・ 授業公開 (成果と課題) ○算数科ノート交流	

12	7	木	○個人研修 ・2学期評価	
	14	木	○個人研修 ・2学期評価	
	21	木	○算数科ノート交流	
	25	月	○理論研修（担当：総合担当） ・2学期総合的な学習の時間の成果と課題 ○ブロック研修（担当：教務主任） ・標準学力調査採点	
1	5	金	○理論研修（担当：研究主任） ・家庭科指導案検討（専科）	
			○授業研究・協議会（担当：研究主任） 算数科授業研究（5年）	
	18	木	○理論研修（担当：研究主任） ・科指導案検討（2年）（3年）	
	25	木	○算数科ノート交流	
2			○授業研究・協議会（担当：研究主任） ・○○科授業研究（2年）（3年）	広島大学大学院 木下博義先生④
	8	木	○ブロック研修（担当：教務主任） ・標準学力調査結果分析と改善計画作成	
	22	木	○算数科ノート交流	
			○小中連携	
3	2	木	○理論研修（担当：研究主任） ・研究のまとめ	
	19	火	○理論研修（担当：教務主任） ・標準学力調査改善における検証結果交流	